

常新新聞

五月九日夕刊

定額 一月五圓 三月十圓 半年二十圓 一年四十圓
 代金 郵費 別送
 印刷所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

ミアードフ

平名産

本品は多量の薬用生
 フトー酒を水飴に混
 合して製造せし最も
 理想的の滋養にして變
 質の憂ひなく贈答品
 に適す

大特價

通學用ゴムマント

男子用.....1.50ヨリ
 女子用.....1.60ヨリ
 なかや洋服店

貸家案内

字白銀町商人向 拾八、〇〇〇
 同 事務向 四〇、〇〇〇
 同 勤人向 八〇、〇〇〇
 同 柳町 勤人向 五〇、〇〇〇
 同 同 同 六〇、〇〇〇
 同 同 同 七〇、〇〇〇
 同 同 同 八〇、〇〇〇
 同 同 同 九〇、〇〇〇
 同 同 同 一〇〇、〇〇〇

加藤營業所
 白銀(電話三二〇番)

支那に於ける不平等 條約廢止運動の概要

陸軍歩兵大尉 萩原 英

一月五日漢口國民黨聯合會の決議を以て英租界の臨時管理委員會を組織し英租界内一切の市政公安事項を管理せしめ外交總長陳友仁は英國領事に通告、英國警察の標札を撤し黨代表辦公處の標札を掲げたり、七日九江又群衆と英租界巡警と衝突す、八日漢口英租界管理委員會成立し陳友仁を委員長とし租界内は支那、武装警察を以て秩序を維持せしむ、在北京英國大使は人を

漢口に派し返還を要求せしも陳友仁は英國に對し被害者に對する賠償を要求し且つ租界の存在は支那の主權を侵害するものなるを以て之れを回收する旨答ふ、其後數次交渉の結果二月十九日漢口英租界回收の調印を了し翌二十日九江租界回收の調印を了したり。本事件發生後北京政府は天津英租界回收の準備を相當進捗せしめたるも、其の後の英國の對支態度は草まり現在に

及ぶ、漢口九江に於ける英國租界の回收を以て支那人は民衆の力能く強權に對抗し得るとなし支那外交史上、一世紀元を開き素武力政策を以て誇る帝國主義者に對し一つの教訓を與へたると共に誠に痛快事件として益々條約廢棄租界回收の熱を高めつゝあるのである、第六章條約廢棄運動の將來

パリ會議華盛頓會議等に於て米國が常に支那に對し同情を表すと共に列國の對支態度を制肘したる事實は今日に於ても見逃す事の出來ざる事實である

(つづく)

大懸賞額

(電話平三六三三)

一等 壹百圓 (復興債券) 五十本
 二等 五十圓 五十本
 三等 拾圓 二百本
 四等 五圓 二百本
 五等 同 五百本

品 精工合製ニツケ
 丸形机上時計(市價一圓八十錢)四萬九千五百五十個
 一本も空籤なし

計時腕製舎工精
 ユイセ
 抽籤大特賣附
 國産品普及宣傳
 店賣販約特
 店計時田會

カーテン各種
 コート一式
 エプロン各種
 醫術用白衣一式
 理髮用白衣各種

福島縣平町長橋町三十
 十字屋代理店
 小西商店
 本店 東京市池袋九一五
 山本商店

親切 住友生命

住友生命の一大特長

- ▲經營者ノ確實ナル事
- ▲責任準備金ノ多キ事
- ▲住友生命ノ積立金ハ我國テハ第一位ヲ占メテ
- ▲保費料金ノ低廉ナル事
- ▲親切ニシテ寛大ナル事
- ▲配當金ノ多キ事
- ▲住友生命ハ資本ニ對スル配當率頂キマセン
- ▲カラ利益ハ全部契約者ノモノニナリマス
- ▲絶大ナル信用——確固タル經營——全クノ契約者本位

平代理店 金成泉一、郎
 平町材木町 (電話七〇四番)

石版印刷物

電話七五七番

所刷印マヤルマ 前驛平

血煙の馬場

監督 伊藤 匠 主演 藤田 進 伊藤 雄之助 藤野 秀夫 堀田 金星 小川 國松 市川 松之助 川田 芳子 吾妻 三郎

五月十一日ヨリ
 金曜・土曜・日曜日學生デー
 入場料普通
 日活 高級常設 平館
 松竹 電話四四六

戦争と女性
 浅岡信夫・浦邊糸子・南部 章三・松本静枝
 鷄鳴に明け晩鐘に暮る平和なる村に突如起る某國との戦争 青年讓治と鈴蘭が戀の哀史

悲願千人斬
 藤野秀夫・堀田金星・小川國松・市川松之助・川田芳子・吾妻三郎
 劍光閃々……暗雲漲る戰國の世風雲捲き起り悲壯慘風の大剣史

木村外科専門醫院

花柳科専門
 本院自炊の便あり
 平町五丁目橋際

食パン	十六錢
ミロパン	五錢
クリームパン	五錢
ジャムパン	五錢
シヤムパン	五錢
甘食	五錢
ビーナツツケーキ	五錢

目丁四町平
 ヤトモツマ
 番四一二話電

縣下隨一の漁業王國

江名築港完全になる

卅一萬餘圓の工費

漁船三十隻をらくらく収容

年産百萬圓を突破し縣下隨一の漁場たる石城郡江名港は古來磐城七濱の一つとして有名になつてゐるが、將來一層漁業を盛んにし同町の進展をはかるべく早くから漁港修築の希望を抱き二十六年間漁業組合長の職にあり鋭意用地の發展に努力しつゝある中田政吉、故町長中山元治、町長河野嘉藏諸氏を始め組合員一同の奮闘により實現の第一歩を踏んで起工七ヶ年の歳月と三十一萬餘圓の工費を要して遂に工成り卅數艘の漁船を完全に避難せしめ得る良港となり町民多年の熱望はこゝに達成され將來の發展は一般の注目の的となるに至つた

全町を挙げて

喜びをさぐる

けふ午前十時擧式

理想的の良港を完成し得たこととて町民の喜びは非常なもの町民擧げてけふの祝賀會を盛んにしたいと意氣込み協賛會を設け約四千圓を投じて一切の經費に充て來會者一同を歡待する事となつた、落成式は午前十時から擧行

伊東知事臨場

上京中の伊東知事が七日午後七時着列車で歸福したが九日擧行される江名漁港落成式に臨むべく八日午後二時四十分發列車で江名町に出張した

將來の發展に偉大な貢獻

中田組合長談

中田漁業組合長は満面に喜

本縣では御大典に際し造植林についての功績者を表彰すべく調査中であつた處今西村考古學研究者湯澤唯一氏からの通知によつて杉造植の初めは本縣である事判明したので近く山林課から實地調査に出張するがその通知によると湯澤氏が祖先である代官寺西重次郎氏が伊達桑折郷駐在だつた時の事蹟調査中その友人である

本縣が日本では

杉苗造植の始祖

遠く文化年中に於て

石城郡地方で始めた

青木充延に關しての古書に『寶心名照禪覺書』なるものありそれには青木充延が文化十年五月十八日奥羽警前郡湯本村釋迦堂住僧に實心を招聘し三四ヶ年かゝりて杉苗及移植について講習せしめたことありその末文には『寶心四十八才より杉苗作りを初め五十九才までに十六萬三千本を作り立て人々に勵め施し興へたこれが日本始めての杉苗傳授で

あり近隣の大名内藤、安藤牧野、本多の四侯にも一萬本宛四萬本を献上し某山に植樹せしめたその成績極めて

海水の低溫から

鯉漁期が遅れる

近年稀有の現象

磐城丸の船長は語る

さきに天体觀測講習航海の歸途房州野島崎燈臺東方六十哩の海區において鯉五百尾を釣獲したる縣水産試験場磐城丸は海洋觀測のため四日小名濱出帆鹽屋崎沖合百哩の海區まで廻航し六日歸航したが右觀測の結果に

良好であり今に標示を殘せり」とあつたといふにあり因に磐前郡とは現在の石城郡磐崎村地方の古稱である

してこの寒は北の方から南漸して本縣茨城千葉の沿岸を洗ひつゝあるのでも鯉群も房州の鼻あたり止まつてゐるらしいこんな具合で縣下における本年の鯉漁業は例年になく遅れるものと思はれる

産婆營業許可六名

今回縣から産婆の營業を許可された者

- 石城郡錦村小島やす△
- 同郡山田村國井も△
- 同郡大沼村長田ちよう△
- 同郡大沼村鈴木りち△
- 同郡吉井田村松本たか△
- 福島市大町千葉かつよ△

びをたへて語る

「町民一同の多年の苦心がむくいられた理想的の漁港が完成したことは全く愉快に堪へないさきには十二馬力、十五馬力の漁船が現在では七十馬力の四十噸の大型漁船となり今後に出る事になるので随つて完全なる漁港がもつとも必要であるこの漁港の完成は將來の漁業の發展に偉大な力を與へるに相違ない今日の盛儀を故中山町長に見せる事の出来ないことは何よりも遺憾である」

餘興の数々

來賓百數十名

全町思ひ／＼に裝飾をなし平および小名濱藝者二十餘名の手踊りある外町内から山車、屋台、角力、煙花、その他の餘興あり同町空前の賑はひを見るであらう、來賓は百數十名で一同に協賛會から記念品を贈る事となつてゐる

中山氏を懷ふ

河野町長述懐

今日の盛儀を擧げらるゝに就いては町民の齊しく感激に堪へぬ處であるが本事業に最も功勞あつた前町長故中山元治君をして生前親くこの盛儀を擧行せしむる事が出来たならばと我々たるもの眞に無量の感慨なきを得ない併し今日の盛儀に對しては故人もまた泉下に莞爾たるものがあらう。

常磐露商組合總會

常磐露商組合春季總會は來

る十二日正午より平劇場に於て開催前年中にわたける會務の報告、役員の改選等を行ふと

初旅の便り

磐城高等女學校

三學年修學旅行

（六日第三信）楽しい

旅行第二日目の朝は清よく明けかゝつた。柔らかな朝風を受つゝ窓邊により添つて眺めるとほんどに恵まれた日だつた中禪寺の隱やかな／＼鏡のやうな湖面「なんと恵まれてゐるのでせう」などと語り合ふ聲もそちこちに聞える。赤塗の膳で食事をすますと中禪寺に向つた湖水をめぐり山々に早や春も消えやうとする頃なのに雪が面白く形どつて居た。中禪寺の中に入り、莊嚴な佛様の前に立つた時、遠い／＼史跡を思ひ起してなんども云への感に打たれた、寶物を拜觀して、湖岸に降りて居た。そこにはモーターボートが一同を笑顔で待つて居た。青海原のやうな廣い／＼水の面を這るかのやうに走つた時四邊の自然の美を眺めて清められた、心が一層澄んだやうな気分になつた。前へ進む舟の沫が涼しい顔にサーッと振りかゝつて來る。

青海原と山、私達は戰場が原へと堪へ切れぬ樂しい中一つ一つの望を持つて走つて行つた。皆んなのうごかす手漕りにスケッチブックに美しい景色を寫して居た。やつと菖蒲が浦に着くと急ぐ有名な日光養魚場を縦覽する事になつた、白樺の並木の細道を通つて行くとき大きな池が澤山横たわつて居た。鯉が飼養されて池の中を泳ぎ廻つて居た。此れが大きく

なれば中禪寺湖に放つただとの事だつた。幾つも大きくなる時待つ鯉が勢よく泳いで居た。又も私達を喜ばす大自然が包み切れた美を打揃へて居た羊腸の小徑を縫ふ様に行く中、岩を噛む池、獄川の流れの音を耳にしなが

ら赤土の小徑を辿つた春の微風に葉すれの音淋しい熊笹の原幹光る白樺の林の梢越しほの白い冬の名残りの雪留めた白根山をバックとして私達は記念撮影した再び赤土道を辿つた。やがて臆に映つた荒涼たる戰場が原、青磁色の煙る男体山の雄々しい裾野を彩る木の灰赤き、繊細な木々のすつきりした林をすかして青い空が快かつた、朽葉を踏むで行けば枯尾花のさみしい吸き……すすりと胸を掠めた暗い旅愁にも似た思ひがあつた、朽葉に憩ふそのかみ湖であつたと云ふ此所、今は熔岩で堰止められて湖水も濁り昔神様が戦つたと云ふ傳説に戰場が原と銘づけられて居るとか……自然の美しさに時を過ぎやがて淋しい別れを告げた上る時に比べて下る時は左程困難でもなかつた緑色に眞澄める中禪寺湖畔を白帆にあぐら對岸の山に憧れて歩いた、九十九折の坂を下る途中足もいつか重くなつて電車に乗つた時言葉もなくなだれて来た。

眞白に縁に流る大谷川に懸る赤い神橋の前で電車を乗り捨て日光町の土州屋旅館の愛嬌たつぷりな番頭さん女中さんに迎へられた時に言ひ得ない氣安い吐息が唇をのめられたその宵八時より私達の間に茶話會が催れ面白可笑しく睦み合ひ一同夢路に入つた